

6th KU-NCU-TITech Joint Student Seminar

第6回京都大学-台湾中央大学-東京工業大学合同学生セミナー

- **代表者** : Huei-Tsyr Chen, Sumio Sawada (澤田純男)
- **日時** : March 9-12, 2009 (平成21年3月9日～12日)
- **場所** : 台湾中央大学 (National Central University, Taiwan)
- **主催** : Dept. of Civil Engineering, National Central University (台湾中央大学 土木工程学系)
- **共催** : Earthquake Engineering Research Group in Civil Engineering, Kyoto University (京都大学土木系耐震工学研究グループ), Earthquake Engineering Research Group, Tokyo Institute of Technology (東京工業大学耐震工学研究グループ), Kyoto University Global COE Program “Global Center for Education and Research on Human Security Engineering for Asian Megacities” (京都大学グローバル COE プログラム 「アジア・メガシティの人間安全保障工学拠点」)

• **主な参加者**

- Sumio Sawada (Kyoto University)
- Junji Kiyono (Kyoto University)
- Akira Igarashi (Kyoto University)
- Hiroyuki Goto (Kyoto University)
- Yong-Ming Tien (National Central University, Taiwan)
- Huei-Tsyr Chen (National Central University, Taiwan)
- Hsieh-Lung Hsu (National Central University, Taiwan)
- Tzu-Ying Lee (National Central University, Taiwan)
- Hitoshi Morikawa (Tokyo Institute of Technology)
- Tsuyoshi Ichimura (Tokyo Institute of Technology)

• **シンポジウムの目的・概要**

本シンポジウムは、耐震工学分野における学生が英語で研究成果を発表し、互いの交流を深めるために企画されているシンポジウムである。毎年京都大学と台湾中央大学を会場に開催し、今回で第6回を数える。台湾中央大学をホスト校として、京都大学防災研究所・工学研究科都市社会工学専攻の耐震工学系研究室、台湾中央大学土木工程系の耐震・構造・地盤系研究室、東京工業大学総合理工学研究科人間環境システム専攻、理工学研究科土木工学専攻の耐震工学系研究室の学生および教員が集い、シンポジウムが開催された。

・ シンポジウムの様子，得られた成果

3月9日，10日は3大学の学生による英語での口頭発表が行われた。日本から参加している学生は，口頭発表のみならず，少なくとも一度は他大学の学生発表に対して英語で討議をしなければならないことになっていることもあり，各発表に対して活発な質問がなされた。シンポジウムの合間に，台湾中央大学の実験施設の見学会とともに，キャンパス内で土木工程系学生との昼食会が催され，交流が深められた。

3月11日は1999年台湾集集地震の被災地である台中市へ移動し，地震博物館や被害モニュメントを見学した。

今回のシンポジウムでは24件の学生発表があり，うちほぼ半数の11人が初めての英語での発表であった。発表前に各研究室で実施している英語発表のための準備も含め，発表，討議を英語で行ったことは，それぞれの学生にとって有意義な機会であるとともに，自信にもつながり，今後の国際的な活動に向け，得られた成果は大きなものであったように思われる。

・ 写真

